

# 歯学教育モデル・コア・カリキュラム 平成28年度改訂版(案)の概要

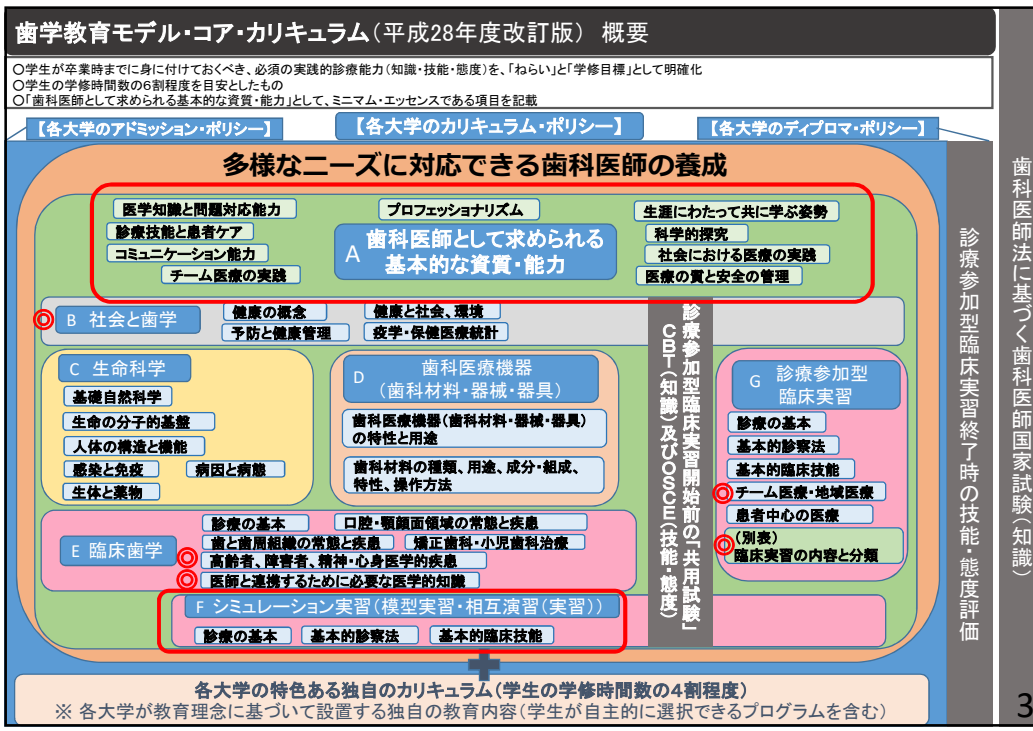
専門研究委員会(歯学教育)  
歯学調査研究チーム

1

## 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの構成

| 平成28年度版                   | 平成22年度版               |
|---------------------------|-----------------------|
| A 歯科医師として求められる基本的な資質と能力   | A 基本事項                |
| B 社会と歯学                   | B 社会と歯学               |
| C 生命科学                    | C 生命科学                |
| D 歯科用医療機器(歯科生体材料、歯科材料・器械) | D 歯科生体材料と歯科材料・器械      |
| E 臨床歯学                    | E 臨床歯学教育              |
| F 相互実習・模型実習・シミュレーション実習    | F 臨床実習<br>臨床実習内容(水準表) |
| G 臨床実習<br>臨床実習の内容と分類      |                       |

2



## 改訂の概要 p.7~10

1. 縦のつながり:モデル・コア・カリキュラム、国家試験出題基準、臨床研修の到達目標の整合性
2. 横のつながり:医学・歯学の両モデル・コア・カリキュラムの一部共有化
3. 「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」の实质化
4. 診療参加型臨床実習の充実
5. 超高齢社会への対応
6. 臨床実習開始までの基礎模型実習を含めた技能教育に関する学修目標の新設

## 改訂の概要 p.7～10

7. 教養教育と準備教育の融合
8. 「目標」の整理
9. \*印の廃止
10. 総量のスリム化
11. 歯学用語の表記の整理  
平成30年版歯科医師国家試験出題基準の用語に準拠
12. 世界への発信  
次年度、英文翻訳

## 1. 縦のつながり

- モデル・コア・カリキュラム、国家試験出題基準、臨床研修の到達目標の整合性
  - **モデル・コア・カリキュラム、国家試験出題基準の同時改訂**
    - B「社会と歯学」の大幅見直し
    - E-6 医師と連携するために必要な医学的知識  
代表的医科疾患・病態の例示
    - 臨床実習内容(水準表)の見直し→臨床実習の内容と分類

## 2. 横のつながり

- 医学と共通のキャッチフレーズ

### 「多様なニーズに対応できる医師・歯科医師の養成」

国際的な公衆衛生や医療制度の変遷を鑑み、国民から求められる倫理観、医療安全、チーム医療、地域包括ケア、健康長寿社会などのニーズに対応できる実践的臨床能力を有する医師・歯科医師を養成

- 地域包括ケアシステム A-7-1), B-2-2), G-4
- 地域医療 A-7-1), G-4
- 高齢者の歯科診療 A-7-1), B-2-2), E-1-4)(1), E-5-1), F-3-7)
- 個人識別 B-2-3)
- 薬剤耐性 (AMR) C-4-1), C-6-4), G-1-2)
- アレルギー対策 (アレルギー対策基本法) C-4-2), E-2-4)(10)
- 慢性の痛み E-2-4)(10) など

7

## 3. 「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」の実質化<sub>p.14~21</sub>

- 学修により獲得可能なものであることを明確にするために、「資質」から「資質・能力」へ変更

### A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力

- 1 プロフェッショナリズム
- 2 医学知識と問題対応能力
- 3 診療技能と患者ケア
- 4 コミュニケーション能力
- 5 チーム医療の実践
- 6 医療の質と安全の管理
- 7 社会における医療の実践
- 8 科学的探究
- 9 生涯にわたって学ぶ姿勢

### ○ 歯科医師として求められる基本的な資質

- 1 歯科医師としての職責
- 2 患者中心の視点
- 3 コミュニケーション能力
- 4 チーム医療
- 5 総合的診療能力
- 6 地域医療
- 7 研究志向
- 8 自己研鑽

### A 歯科医師として求められる基本的な資質

- 1 患者の尊敬
- 2 医の倫理
- 3 歯科医師の責務
- 4 インフォームドコンセント
- 5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理
- 6 生涯学習
- 7 対人関係能力

「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」と旧版「A 基本事項」を統合

8

## 4. 診療参加型臨床実習の充実 p50~61

- 臨床実習～臨床研修～生涯研修のシームレスな流れ
- 学位の質＝職業資格の質担保、グローバルスタンダード
- 臨床能力の担保かつ実践する立場を考慮
- 「G 臨床実習」の記載をコンピテンスベースで整理
- ポートフォリオの例示

| 項目         | 指導者のもと実践する<br>(自験を求めるもの) | 指導者のもとでの実践が<br>望まれる(自験不可の場<br>合はシミュレーション等で<br>補完する) | 指導者の介助をする | 指導者のもとで見学・体<br>験することが望ましい |
|------------|--------------------------|---|-----------|---------------------------|
| 診療の基本      | } シンプルに4つに分類             |   |           |                           |
| 基本的診察法     |                          |   |           |                           |
| 基本的臨床技能    |                          |   |           |                           |
| チーム医療・地域医療 |                          |   |           |                           |

9

## 5. 超高齢社会への対応

- 多職種連携・多職種協働やチーム医療を具体的にイメージできるカリキュラムへの期待
  - A-7-1) 地域医療への貢献
  - A-5 チーム医療の実践
  - A-4 コミュニケーション能力
  - B-2-2) 保健・医療・福祉・介護制度
  - G-4 チーム医療・地域医療 など

10

## 6. 臨床実習開始前の技能教育に関する学修目標の新設 p.46~49

- 診療参加型臨床実習に進む前に、臨床能力の知識だけでなく態度及び技能についてシミュレーション実習（模型実習・相互演習〔実習〕）を通じて十分に訓練することが必要
- 新たにFシミュレーション実習（模型実習・相互演習〔実習〕）を新設

11

## 7. 教養教育と準備教育の融合

- 独立して記載の準備教育の内容を本文に組み込み
  - 人の行動と心理⇒B-3-2) 歯科疾患の予防と健康管理
  - 統計の基礎、統計手法の適用⇒ B-4-2) 保健医療統計
  - 生体を構成する物質の化学的基礎⇒ C-1 基礎自然科学  
それぞれ発展的に融合

12

## 8. 「目標」の整理

## 9. \*印の廃止

- 「一般目標と到達目標」⇒「ねらいと学修目標」
- \*印のついていない項目は臨床実習開始後から卒業時までには修得すればよいとの誤解⇒共用試験出題基準というイメージからの脱却

## A領域の改訂の概要

- 「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」と旧版「A基本事項」を統合
- 研究マインドについての見直し、歯科医師としての医の倫理と研究倫理について記載
- 様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合整理し、表現する基本的能力(知識、技能、態度・習慣)・リベラルアーツを身につける」というねらいを明確化
- 多職種との連携によるチーム医療や、地域での保健・医療・福祉・介護の連携等の盛り込み
- 医療安全に関して、歯科医療における安全性への配慮と危機管理に修正

## B領域の改訂の概要

- 地域包括ケアシステム、地域包括ケアシステムにおける歯科医師の役割等の記載
- 個人識別、死因究明、虐待について内容の充実
- 個人識別については、学修目標に「歯科医師による身元確認や関連する死因究明等の制度を説明できる」との記載を追加

## C領域の改訂の概要

- 全身疾患と口腔との関係で医科疾患を学ぶ上で基礎となる生命科学を修得するための内容の充実
- 臨床歯学教育との重複の解消
- 括弧書き(【 】)が不要になるように文章を再検討し、内容的・文章的な矛盾点の整理した



## D領域の改訂の概要

- 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(旧薬事法)を意識して、「歯科医療機器の所要性質」を明示

## E領域の改訂の概要

- 超高齢社会の中、医師と連携するために必要な医学的知識として、全身的症候・病態、代表的な医科疾患を記載(医師と連携するために必要な医学的知識)
  - 内容については医科とも合同で検討
- 「歯科医療の展開」の充実化
  - 「矯正歯科・小児歯科治療」と「高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患」への変更

## F領域の改訂の概要

- 旧版「E 臨床歯学教育」から、臨床実習開始までの基礎模型実習を含めた、技能教育に関する学修目標を作成し、「F シミュレーション実習(模型実習・相互演習(実習))」として新設。
- 診療参加型臨床実習に入る前の技能教育で学修すべき項目として、共用試験OSCEの出題項目と連動する形で改訂

19

## G領域の改訂の概要

- コンピテンスベースの方向で記載
- 診療の基本、基本的診察法、基本的臨床技能、チーム医療・地域医療及び患者中心の医療の4項目で構成
- 診療の基本は、各科共通で行えるよう、医療情報から臨床診断推論という内容を、さらに臨床全体を通じて医療安全・感染対策等の項目を記載
- 基本的診察法は、医療面接、診察及び検査で構成
- チーム医療・地域医療に病診連携、多職種連携、在宅医療、地域包括ケアシステムのキーワードの明示
- 臨床実習の内容の改訂→臨床実習の内容と分類

20